

小説

かむらいそた
嘉村 礒多



山口市
(1897～1933)

嘉村礒多は壮年にして故郷を捨てはしたが、その文学は常に故郷に根ざすものであった。過去への悔恨はどこまでも彼につきまとい、罪業の意識を逃れることはできなかつた。それは、切なる望郷の思いと相俟って読者を自ずとその文学の深みへ誘う。

処女作「業苦」以来、己の内面世界を凝視し描き続けた嘉村文学において私小説は極まったと評されている。

(多田美千代)

【主な著作】

『途上』(江川書房、昭和7年)

『嘉村礒多全集』全3巻(白水社、昭和9年)

『嘉村礒多全集』上・下巻(南雲堂桜楓社、昭和40年)